

令和2年度「公募型『ロボット実証実験支援事業』」後期採択案件の概要

1 介護・医療分野（1件）

検温・マスク検知を行う感染症対策ロボット
(株式会社C I J)



[ロボットの概要]

体温が高い人及びマスクを装着していない人を検知し、音声やディスプレイ上の表示によって知らせるロボットです。

[実証実験の概要]

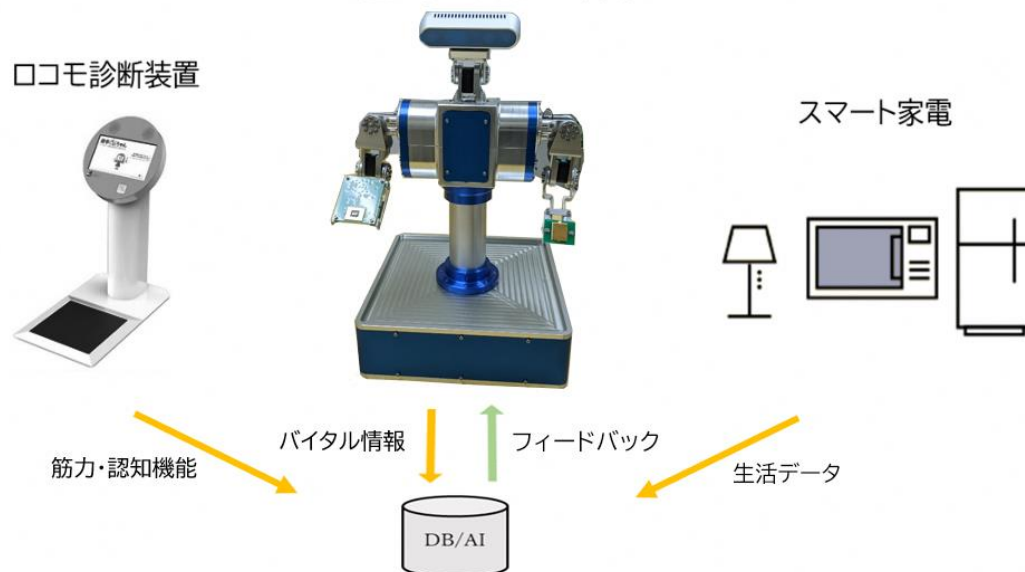
施設内に、検温・マスク検知ロボットを設置して、利用者の体調変化やマスク装着状態を検知する実証実験を行います。

また、施設利用者や施設管理者にアンケートを実施し、実験前後での定期的な検温作業の自動化や体調が悪化した人の迅速な把握、マスク検知精度について、本ロボットの有効性を検証します。

2 高齢者等への生活支援分野（1件）

神奈川高齢者生活支援システムにおけるコミュニケーションロボット
(幾徳学園 神奈川工科大学)

コミュニケーションロボット



[ロボットの概要]

コミュニケーションロボットをはじめとしたサブシステム（家電やバイタル等の測定装置）をクラウドに接続して利用者の生活評価情報（利用者の活動量、バイタル情報等）を収集し、クラウド上にあるデータベースとAIにおいて、利用者の生活改善につながるアドバイスを作成します。さらに、コミュニケーションロボットを介して、アドバイスを利用者に提供することで、利用者の健康寿命の延伸を目指すシステムです。

[実証実験の概要]

高齢者モニターに対して、システムが収集する生活評価情報や提供するアドバイスに関する聞き取り調査を実施します。調査結果をもとに、システムと利用者がやり取りする情報の仕様を決定し、実装につなげる予定です。

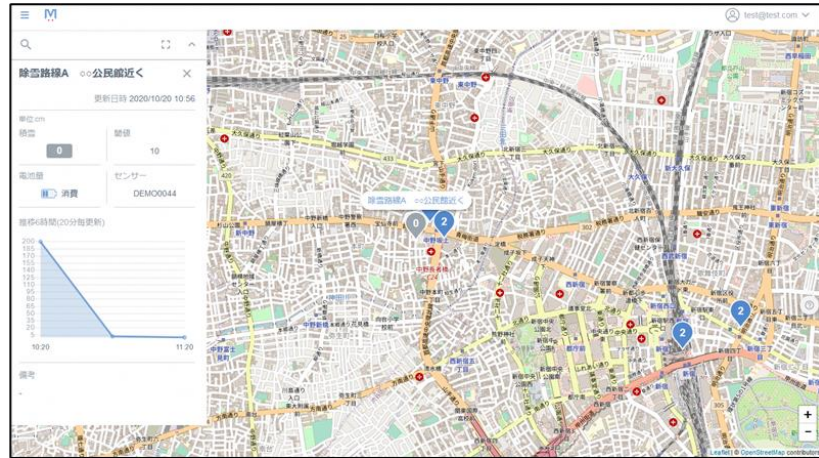
3 災害対応分野（1件）

積雪深自動モニタリングシステム (アクセルマーク株式会社)

積雪深センサー本体



閲覧用画面（イメージ図）



[ロボットの概要]

レーザー距離センサーを用いて、積雪の深さを自動的にモニタリングするシステムです。計測結果はクラウド上で管理しているため、システムにログインすればいつでも確認が可能です。

[実証実験の概要]

積雪が見込まれるエリアにセンサーを設置し、自動計測により取得したデータと、自治体の除雪担当者が計測した深さの記録を比較することで、冬季期間中、本システムが安定的にデータを提供できるかを検証します。また、自治体の既存の積雪深センサーと比較した際の利便性や、本システムにより取得したデータが除雪車の出動判断に有効であったかについて聞き取り調査を実施します。